

はじめに

子どもたちを取り巻く環境は刻一刻と変化し、これからの学校教育に求められる役割や機能が多様化していく中、各校では、子どもたちの発達や教育的ニーズを踏まえつつ、一人一人の可能性を最大限伸ばしていく教育にご尽力いただいているところです。

生徒指導サポート実践校においては、「生徒指導體制の確立」、「開かれた学級経営」の実現及び児童生徒の主体的な「絆づくり」の推進、「個に寄り添う指導・支援の充実」を取組の柱として、県内の公立小・中・義務教育学校、高等学校において暴力行為、いじめ、不登校等生徒指導上の諸課題の未然防止や早期対応を図る実践を進めてまいりました。

各実践校においては、社会性をはぐくみ、児童生徒間の絆を強め、望ましい集団を育成することを目的とし、各教科や特別活動等の中で、体験活動の取組を創意工夫されております。各学校におかれましても、社会奉仕活動や異年齢交流等を通じて、児童生徒自らが課題を発見、解決するといった主体的な活動を推進していただきたいと思っております。

また、今年度のスクールソーシャルワーカー連絡協議会では、年間を通して、スクールソーシャルワーカーがグループごとに目標を決め、取組を進めた内容について、実践の共有や手立ての検証等を踏まえ、取組のまとめを行いました。今年度の取組を広く県内に発信するとともに、今後も、広く深い児童生徒理解のもと、全ての児童生徒の小さなSOSを見逃さない「チーム学校」の指導・支援の充実を図り、取組の一層の充実を図ってまいります。

本資料が各学校での取組の参考となり、生徒指導のより一層の充実に関与することを願っています。

令和7年3月

豊かな心と身体育成課